

# 算数教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ子の育成 ～数学的活動の充実を通して～
日時	令和4年8月22日(月) 15:00～16:30
会場	北広島市立北の台小学校
講師	加固 希支男 氏(肩書:東京学芸大学附属 小金井小学校 教諭)
参加者	38名
研修会 の 様子	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">    </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>昨年同様、コロナ禍の中、講師の加固氏とリモート接続(Google Meet)という形ではありましたが、北の台小学校体育館を会場として、今回は参加者を一同に介して開催することができました。</p> <p>講師の紹介後、さっそく加固氏の「6年 資料の調べ方」の授業動画を視聴。D領域「データの活用」のねらいの中でも特に「批判的に考察すること」を重視した授業でした。本実践では毎日の自分の検温記録を扱い、検温方法の妥当性について、客観性をもった批判的思考を重ねながら、「自分の平熱を考える」というものでした。</p> <p>授業では、平均値と最頻値のどちらを平熱とおさえるべきかを考察しました。個々の発言から発想の源を探り、時には問い返した上で言語化させ、丁寧に板書し、多くの児童の発言を引き出しながら全体への共有が図られていきました。検温の際の条件が個々にまちまちであることが発言のやりとりを通して明らかになり、データの取り方の妥当性へと焦点が絞られ次回の学習へと繋がっていきました。</p> <p>動画視聴後は、今年度の石算研の研究の重点である“児童の考えの全体での共有”について、お話いただきました。発想の源を問う上で“言語化”は土台となる重要なものであることが再認識されました。その中で昨今の「個別最適な学び」に関わり、主体的な学びを実現させるために一斉授業スタイルと個別学習スタイルを併用させた「指導の個別化」と「学習の個性化」という考え方の提示、また、発想の源の“言語化”や“共有”に効果的な一人一台端末の活用の実践例の紹介などを通して、今後の研究の方向を示唆する貴重な学習の機会を得ることもできました。</p> <p>お忙しい中、限られた時間に様々な視点からご講演いただいた加固氏、コロナ禍の中にもかかわらず会場設営に尽力して下さった北の台小学校様、遠方よりご参加いただいた多くの皆様に感謝を申し上げ、終了報告とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">(石教研算数部会副部長 高橋 緩)</p> </div> </div>